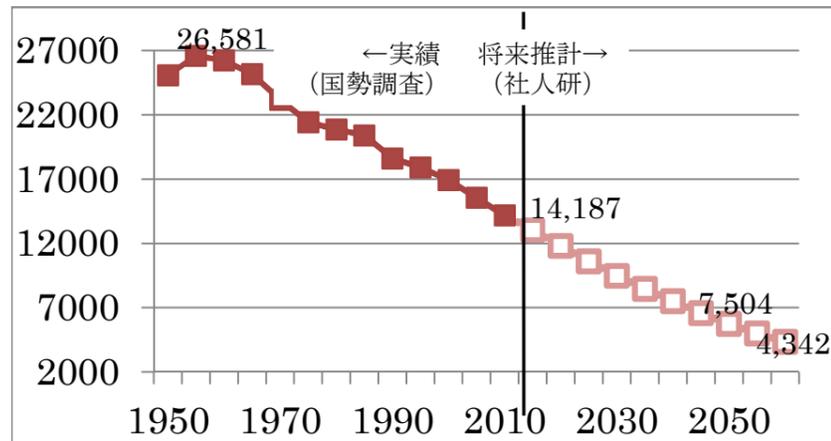


一戸町人口ビジョン

一戸町の人口の見通し

2010年に14,187人あった人口は25年後(2040年)に約7,500人、約半分(減少率47.1%)にまで減少する!

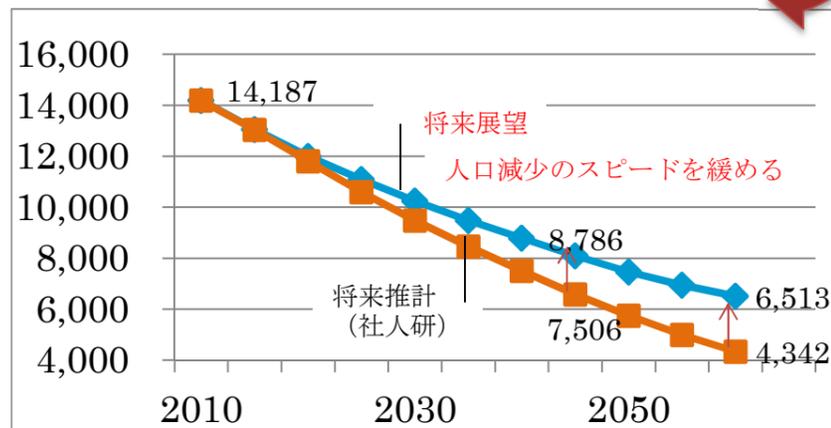


■グラフ1 一戸町の人口の経過と将来推計人口

一戸町の人口は1955年の26,581人をピークに減少しています。国立社会保障・人口問題研究所(社人研)は2040年には、7,504人、2060年には4,342人まで減少すると推計しています。

一戸町の目標人口

今から25年後(2040年)、一戸町の人口は9,000人を目標します!
40年後(2060年)には、7,000人を目標します!



■グラフ2 一戸町の人口の将来展望と推計人口の比較

- ア. 合計特殊出生率(目標):
平成27年(2015年)は1.47から段階的な上昇を目指し、平成47年(2040)は1.84とし、その後一定とします。合計特殊出生率1.84は過去30年間で一戸町の最高記録となる1983~1987年に記録したものです。
- イ. 社会移動の状況(目標):
今後10年かけて社会移動を半減し、平成37年(2025年)以降は社会移動の差をゼロとします。

一戸町総合戦略(平成27年度~平成31年度の5年間)

1. 基本目標①【しごとづくり】

やりがいと生活を支える所得が得られる仕事を産み出し、一戸への新たな流れの創出を目指す

若年層や町外の方の就労・定住・移住に関する希望に応じ、より充足感を感じることができる仕事との出会いを作りながら、新たな産業の芽を探りつつ、一戸への新たな流れの創出を目指します。

【主な数値目標】

- ・就業者数(全産業): 5,162人(H26)→5,162人(H31)
- ・年間転入者数: 296人(H26)→350人(H31)

2. 基本目標②【ひとづくり】

未婚率低下と出生率向上を目指し、町全体での子育て支援と豊かな教育による地域の魅力化につなげる

結婚や出産は個人の決定に基づくものであることを基本としつつ、若い世代の就労、出会い、結婚、妊娠・出産、子育てに関する願いや想いに応え、良いイメージをもって家庭をもつことができるよう取り組みます。さらに豊かな教育による地域の魅力化から未婚率低下と出生率向上を目指し、地域の魅力化につなげます。

【主な数値目標】

- ・20~30代の未婚率: 57.9%(H26)→55.0%(H31)
- ・婚姻数: 47件(H26)→60件(H31)

3. 基本目標③【まちづくり】

医療・福祉やコミュニティ、再生可能エネルギーなど地域資源や活力が豊かなふるさとを支える基盤の強化を進め、地域の魅力の向上を目指す

一戸に住みたい、働きたい、帰りたいという人々の願いに応えられ地域資源や活力が豊かなふるさと一戸をつくりあげます。

【主な数値目標】

- ・一戸町に住み続けたいと考える町民の割合: 一% →80.0%(H31)
- ・年間転出者数: 375人→365人(H31)

《主な取り組み》

(1) 農林業について

- ①農林業の収益性を高める取り組みを支援します。
- ②農林業への新規就業や後継者の確保、土地や資源の活用を支援します。

(2) 商工・観光・交流・伝統産業・地場産業・新たな仕事の創出

- ①町内企業が求める人材を把握するとともに、関係機関と連携した就業支援を行います。
- ②産業の新たな拠点を創出します。
- ③鳥越の竹細工などの町内伝統工芸を産業として育成すべく、現状の調査を行い、各分野における人材を育成します。
- ④学校と企業、行政の連携に基づく職場体験を通じ、生徒等の町内産業の理解を深めます。
- ⑤町と都市部との交流による活性化により「食」産業の機能強化から新たな仕事を創出します。
- ⑥観光客向けWi-Fi環境や地域おこし協力隊の活用など、にぎわい創出への環境を整備します。

(3) 移住・定住支援

- ①都市部の高齢者や子育て世代など、ターゲットを絞った移住への取り組みを行います。

《主な取り組み》

(1) 若者の交流・結婚支援

- ①若者のコミュニティ・集いの場を新たに創出し、交流・婚活イベントの企画運営を支援します。

(2) 子育て支援

- ①新婚や子育て世代、また住民が永く町に住み続けられるよう、総合的な住宅環境整備、例えば子育て支援住宅、宅地分譲などに取り組みます。
- ②①のほか、これまで町の重要施策として取り組んできた子育て支援施策を継続します。
- ③就学前後の児童の居場所を確保します。
- ④公共交通を利用した通学への支援や最適な交通手段の確保を行います。

(3) 教育

- ①子どもの主体的、意欲的に取り組める環境づくりや体験活動を通じて意志や可能性を引き出す人材育成を行います。
- ②学校関係者や関係機関、保護者や地域と連携し、学力向上に取り組みます。
- ③学校と企業、行政と関係機関が連携し、地元定着に向けたキャリア教育に取り組みます。
- ④学童クラブと放課後子ども教室の相互連携に体験や学びの場を積極的に取り入れます。
- ⑤町の児童・生徒の主体的、意欲的な取り組みについて、積極的に応援します。

《主な取り組み》

(1) 豊かな自然が育む再生可能エネルギー、自然素材を活用した縄文の心が息づくまちづくり

- ①再生可能エネルギーを生産・活用し、様々な取り組みに活かす環境に優しいまちづくりを進めます。
- ②世界文化遺産登録を目指す御所野遺跡など地域の特長・資産を活かした景観形成を進めます。
- ③豊かな自然環境が育む自然素材を活かした町の工芸品・製品の振興や特産品を開発します。
- ④家庭ごみの資源化、生ごみ減量、リサイクル推進など環境に配慮したまちづくりを進めます。

(2) 情報の発信・循環

- ①ホームページを充実し、必要な情報が必要な人に行き渡る仕組みを構築します。

(3) 地域医療環境の確保

- ①関係医療機関と連携し、継続できる地域医療確保と補足的対策として通院手段確保を図ります。
- ②医療、介護、福祉に係る人材育成の支援を行うとともに、安定した雇用環境を整備します。

(4) 健康づくり

- ①生活習慣病の予防に取り組み、特に働き盛りの30~50代の特定健診受診率を向上します。

(5) 支え合うコミュニティの拡充

- ①町民が安心して暮らし、活躍できる環境整備と高齢者の経験や知恵による活性化を推進します。